

# 雨乞いのお礼から始まった

私たちの命を支える稲を育てるには大量の水が必要で、滋賀には琵琶湖がありながら、昔から水の確保に苦労してきました。各地に伝わる水争いの歴史はもちろん、滋賀県各地に伝わる太鼓踊りも、先人たちが水に苦労してきた証の二つです。余呉町下余呉の青少年育成委員長で太鼓踊りの運営責任者である中村由雄さんにお話を伺いました。

## 雨乞いのお礼として、滋賀各地に広く伝わる太鼓踊り

太鼓踊りは、雨乞いの儀式の結果、雨が降ったことへのお礼として奉納されたのが起こりだと言われています。さまざまな形の踊りが伝わっていますが、雨を支配する龍神にちなんで、蛇の舞いや鉦や太鼓を打ち鳴らして踊るスタイルが基本になっているのはそのためです。古文書によれば、江戸時代、湖北のほとんどの地域で太鼓踊りが奉納されていたとあります。今でも、西浅井町集福寺の花笠踊り、木之本町赤尾の野神踊り：など各地に数多くの踊りが伝わっています。

## 新しい時代の新たな行事として復活した下余呉の太鼓踊り

余呉町の下余呉にも太鼓踊りがありました。長年中断していたのですが、昭和48年、地域活性化の二環と

# 湖北の太鼓の踊り

して地元の人たちの手によって復活され、今は地域の年中行事として定着しています。

「地元には古くから太鼓踊りがあったよ。うなのですが、古来の伝承によりますと、東本願寺の本堂、御影堂再建(明治13年着工、同29年竣工)で北国街道を通じて資材が運ばれた際の慰労のために踊られて以来中断していたといわれています。昭和4年に二度復活したのですが、再び中断してしまい、それを復活させました。」

太鼓そのものは昔から伝わっていたのですが、すべて口伝の世界なので内容に関する資料は一切残っていませんでした。昭和48年に復活させるとき、先輩たちはとても苦労したと聞いています。地元のお年寄りの方々に昔を思い出してもらい、記憶を突き合わせた上で、中学校の音楽の先生が独自の譜面に記録

したが、最近では子供が少なくなって、参加者をそろえるのに苦労しています。

下余呉の踊りは、内容的には湖北町や木之本町、千田、赤尾など余呉川水系の各地とよく似ており、水系ごとに発達した「水と共にあった踊り」ではないかと私は思います。

下余呉に伝わる踊りの遠い起源をさぐる、どうやら湖南地方にありそうな気がしますね。というのも、演目「近江八景」の歌詞の内容や言葉の使い方が湖南のものだからです。

私たちの暮らしを支える大切な稲を育て、いのちそのものをよくくんでくれる「水の潤い」を求めて始まった太鼓踊り：それが今、湖北の地で子供たちを含めた地域の人たちみんなが楽しみにしている「暮らしの潤い」「青少年育成のための行事」として復活・定着しています。

先人たちは稲を育てる「水」を真剣に求め、太鼓踊りはその過程で生まれたものでした。今、その心が新しい時代の太鼓踊りとしてよみがえり、「子供たち」という宝を育てているとも言えます。

写真上より、居拍子の踊り、シャギリ、デコデンの踊り、笛による近江八景の演奏、タカダカの踊り。



復活された太鼓踊りは、8月20日前後に乎弥神社で行われています。踊りの主役は10人の子供たちです。親太鼓(大太鼓)2名と鉦打ち2名は中学生、子太鼓(小太鼓)6名は小学校5、6年生が担当。これに「歌」と称す

## 主役の子供たちが練り歩き、神社で踊りを奉納

装もやはり記憶をもとに地元婦人会の人たちが手縫いで作ってくださったものが今に伝わっています。

したそうです。衣

## 今は暮らしの潤い、子供たちの健全育成を願う踊り

「余呉町には中河内にも太鼓踊りが伝わっていますが、あちらは大人、下余呉は子供たちによって演じられる点の違いがあります。かつては参加者には選ばれるのは子供たちの名譽でした。」



小太鼓 直径約60cm

「余呉町には中河内にも太鼓踊りが伝わっていますが、あちらは大人、下余呉は子供たちによって演じられる点の違いがあります。かつては参加者には選ばれるのは子供たちの名譽でした。」

「余呉町には中河内にも太鼓踊りが伝わっていますが、あちらは大人、下余呉は子供たちによって演じられる点の違いがあります。かつては参加者には選ばれるのは子供たちの名譽でした。」



鉦(かね) 直径約20cm

## ゆとりと喜びを表した太鼓踊り

市長浜城歴史博物館 館長補佐 中島誠一さん

祭礼は時代と共に変化します。太鼓踊りも昔のままの姿が今に伝わっているわけではありません。

本来の雨乞いの際の踊りは、雨を求める必死の思いから鉦や太鼓を激しく鳴らす動きの大きなものでした。踊ると言うよりも、質や質がさなどの雨具を身に付け、雷鳴のように太鼓を鳴らします。それでも雨が降らないときは、鉦や鐘を山の上に運んで打ち鳴らしたとも伝わっています。

一方、いわゆる太鼓踊りは雨が無事降ったお礼の踊り。雨を連想させる所作や鳴り物はほとんどありません。村人の総意に天がこたえてくださったお礼ですから「全員参加」が基本で、心のゆとりから「着飾って踊る」のが特徴です。赤い手甲・脚絆を男性が身につけるのはその最たるものですね。

## 太鼓踊りの当日のながれ

- ①「道行」という演目を演奏しながら、シャギリ(パレード)をする。
- ②乎弥神社に着くと、神社境内で踊ります。その演目は「デンデコ」「近江八景」「タカダカ」「チキチキ」「立拍子」「居拍子」「月さやか」「げに陸奥の国」です。締めくくりの踊りは、「歌は末々」です。



中村由雄(なかむら・よしお)さん 昭和30年、余呉町生まれ。現在、建築自営業の傍ら、下余呉青少年育成委員会の委員長として子どもたちの健全育成に力を入れて、下余呉太鼓踊りの運営を担っています。

